

数値計算および数理人口動態 6

数値計算および数理人口動態 6 (Computational and Mathematical Population Dynamics 6 (CMPD6)) は、2023年5月23日から27日までカナダのマニトバで開催された、人口動態の計算と数理モデリングに関する国際学術集会である。研究集会のタイトルにあるように、人口動態に関する研究が中心であるがここでいう人口動態は人間に限った話では無い。

個体群生態学という分野が生物学にあるように、ここでの人口は種にかかわらず個体群を意味する。集会全体では重力の数理モデルなど、必ずしも個体群とは直接関わりの無い数学研究の発表も散見された。発表の多くはコロナ禍に関連する感染者やその周辺の感染症の人口動態に関する発表が多かった印象である。著者は多地域レスリー行列モデルを用いて2020年の国勢調査のデータから、日本国内と国際移動が与える人口増加率への影響を理論面と数値解析の両方からの分析結果を報告した。

(大泉 嶺 記)

日本人口学会第75回大会

日本人口学会第75回大会は、2023年6月10日(金)、6月11日(土)～6月12日(日)に南山大学(名古屋市)を開催校として完全対面の形で開催された。大会プログラムは以下の通りである。第1日には会長講演、日本人口学会創立75周年を記念して会長経験者による特別座談会が行われた。また大会前日には「地方行政のための GIS チュートリアルセミナー」が開催された。

大会前日 2023年6月9日(金)

第7回「地方行政のための GIS チュートリアルセミナー」

組織者：井上孝(青山学院大学)・小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) 川瀬正樹(広島修道大学)「無料で使える GIS と大学で検討中のオンライン GIS 講座の紹介」
- 2) 鈴木茂允(福井県庁)・中山敬太(福井県庁)・井上希(国立社会保障・人口問題研究所)「福井県庁における GIS の活用事例」
- 3) 草野邦明(群馬大学)・奥貫圭一(群馬大学)「GIS と国勢調査小地域統計を用いた洪水災害時の被災人口の推定」
- 4) 小西純(公益財団法人 統計情報研究開発センター)「地域メッシュ統計による標準化女性子ども比の分析」

第1日 2023年6月10日(土)

企画セッション3「感染症と人口動態の数理」

組織者：大泉嶺(国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) 今隆助(宮崎大学)「単純な離散時間競争モデルにおける適応的な繁殖遅延」
- 2) 大泉嶺(国立社会保障・人口問題研究所)・金城謙作(工学院大学)「多地域レスリー行列の理論と日本の人口減少における解析への応用」
- 3) 江夏洋一(東京理科大学)「タイムラグや自由境界をもつ感染症モデル」
- 4) 國谷紀良(神戸大学)「構造化感染症モデルを利用した COVID-19 の疫学的考察」
- 5) 守田智(静岡大学)「ネットワーク上の感染拡散モデルの基本再生産数」

自由論題 A-1 「人口移動」

- 1) 丸山洋平 (札幌市立大学) 「東京都の人口移動と壮年期の単身化」
- 2) 福本幸男 (大阪経済大学) 「輸入と国際移民に関する実証分析」
- 3) 小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所) 「埼玉県における県内人口移動の時空間分析」
- 4) 小坪将輝 (東北大学・院) ・中谷友樹 (東北大学) 「国内人口移動の減少に関する研究動向」

自由論題 B-1 「結婚と性1」

- 1) 鈴木貴士 (国立社会保障・人口問題研究所) ・尾崎幸謙 (筑波大学) 「男性の職業と結婚—就業構造基本調査匿名データを用いたベイズ推定によるマルチレベル分析—」
- 2) 横山真紀 (国立社会保障・人口問題研究所) 「「経済的不安」と家族形成—非正規雇用の結婚と出産—」
- 3) 西村教子 (公立鳥取環境大学) 「未婚男性の「婚活」を思い止まらせるのはリスク回避か先送りか？」
- 4) 打越文弥 (プリンストン大学) ・James M. Raymo (プリンストン大学) ・尾野嘉邦 (早稲田大学) ・三輪洋文 (学習院大学) 「Understanding Mechanisms of the Marriage Market Mismatch in Japan: A Survey Experiment Approach」

自由論題 A-2 「労働1」

- 1) 江天瑠 (お茶の水女子大学・院) ・永瀬伸子 (お茶の水女子大学) 「コロナ禍で AI・IoT 等テクノロジーの利用は既婚男女の家事労働に与える影響」
- 2) 可部繁三郎 (福井工業大学) 「台湾の育児休業制度利用と女性の復職—2019・2020年調査より—」
- 3) 影山純二 (明海大学) ・松浦司 (中央大学) 「東アジアにおけるファミリー・ワーク・バランス」

自由論題 B-2 「結婚と性2」

- 1) 梁凌詩ナンシー (日本体育大学) 「コロナパンデミックにおける香港の少子化—コロナ政策が出生、結婚に与える影響について—」
- 2) 平森大規 (法政大学) ・釜野さおり (国立社会保障・人口問題研究所) 「日本における性的指向の多面性—大阪市で行われた無作為抽出調査の分析結果から—」
- 3) 小島宏 (早稲田大学) 「20世紀末の大学生における「浮気」の関連要因」

企画セッション4 「地域人口の研究手法：現代、歴史、地域の接点」

組織者：清水昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)

討論者：川口洋 (帝塚山大学) ・中川雅貴 (国立社会保障・人口問題研究所)

- 1) 井上希 (国立社会保障・人口問題研究所) 「小地域別将来人口推計における近年の研究動向」
- 2) 福本拓 (南山大学) 「「意味のある」セグリゲーションの指標を求めて—空間的指標の特徴と利用可能性—」
- 3) 中島満大 (明治大学) 「ユニークな村落を分析するためには？歴史人口学における指標の比較可能性と独自性」
- 4) 鈴木允 (横浜国立大学) 「近代日本における人口移動の実態は、どのように把握できるか—寄留届分析の方法論と可能性—」

自由論題 C-1 「死亡1」

- 1) 堀口侑 (慶應義塾大学・院) 「修正フレキシブルモデルの地域別生命表への応用」
- 2) 山内直樹 (中央大学・院) 「ワイブル分布を用いた生命表死亡率の推計—死因別生命表に基づいた結果の評価—」

自由論題 D-1 「労働2」

- 1) 新田真悟 (東京大学・院) 「職業的地位が高齢期の就業行動に与える影響—ジェンダーによる効果の異質性に着目して—」
- 2) 大石亜希子 (千葉大学) 「高校生のアルバイト就労と進学」
- 3) 佐藤一磨 (拓殖大学) ・ 影山純二 (明海大学) 「女性活躍推進法は非管理職男性の仕事満足度にもどのような影響を及ぼしたのか」
- 4) 趙タン (徳島大学) 「徳島中小企業における女性雇用比率の企業業績に与える影響」

自由論題 C-2 「死亡2」

- 1) 逢見憲一 (国立保健医療科学院) 「2000年以降の月別死因別死亡率の動向とインフルエンザ・COVID-19超過死亡」
- 2) 井川孝之 (明治大学) 「死因別超過死亡の評価による新型コロナウイルス感染症の影響分析」
- 3) 鈴木透 (元国立社会保障・人口問題研究所) 「東アジア比較人口史における死亡要因」

会長講演

稲葉寿 (東京大学) 「—理論の共進化をめざして— 人口学と感染症数理」

日本人口学会創立75周年記念 特別座談会

稲葉寿 (2022~2023年度会長) ・ 安蔵伸治 (2012~2013年度会長) ・ 原俊彦 (2014~2015年度会長) ・ 津谷典子 (2018~2019年度会長) ・ 小島宏 (2020~2021年度会長) 「創立75周年 日本人口学会のあゆみ」

第2日 2023年6月11日 (日)

企画セッション1 「新型コロナウイルス感染症パンデミックに伴う死亡の分析」

組織者：西浦博 (京都大学)

- 1) 鈴木基 (国立感染症研究所) 「COVID-19のパンデミックと超過死亡」
- 2) 野村周平 (慶應義塾大学) 「コロナ禍の死因別・人口動態別の超過死亡分析とその課題」
- 3) 岡田雄大 (京都大学) ・ Munira Sirajum (京都大学) ・ 西浦博 (京都大学) 「2019-21年のCOVID-19流行下の出生時平均余命の変化」
- 4) 西浦博 (京都大学) 「死亡者のいる家庭のインタビューを通じたオミクロン株流行中の死亡分析」
- 5) 米岡大輔 (国立感染症研究所) 「超過死亡の統計モデル」

自由論題 E-1 「健康・医療」

- 1) 南拓磨 (埼玉県立大学) ・ 茂木良平 (南デンマーク大学) 「非婚独居高齢者の主観的意識、健康とウェルビーイング」
- 2) 松倉力也 (日本大学) ・ 謝餘慶 (安徽師範大学) 「超高齢化社会に向かう中国の高齢者の健康に関する分析」

- 3) 李丹 (東京農工大学・院)・向柳春 (東京農工大学・院)・聶海松 (東京農工大学)「中国流働人口の初診医療サービス利用研究----アンダーソン医療選択モデルに基づいて」

自由論題 F-1 「地域」

- 1) 五味馨 (国立環境研究所)「東京電力福島第一原子力発電所事故による避難指示解除後の被災地における人口回復の要因分析」
- 2) 久井情在 (国立社会保障・人口問題研究所)「兵庫県の出先機関ならびに市町村における移住相談窓口の設置状況」
- 3) 鎌田健司 (明治大学)・小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)・菅桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)・山内昌和 (早稲田大学)「都道府県別にみた人口増加率の要因分解：1950-2020年」
- 4) 貴志匡博 (国立社会保障・人口問題研究所)「2015年～2020年の東京圏人口増加市における小地域別の人口統計の特徴—千葉県習志野市を対象として」

自由論題 E-2 「出生 1」

- 1) 福田節也 (国立社会保障・人口問題研究所)「ジェンダーと出生：両性合計出生率による国際比較」
- 2) 岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所)・吉田航 (国立社会保障・人口問題研究所)・守泉理恵 (国立社会保障・人口問題研究所)「新型コロナウイルス感染拡大は将来の出生減にどの程度寄与するか？」
- 3) 丸山士行 (暨南大学)・張陽陽 (暨南大学)「途上国における障がいのある夫婦の出産の動向—性別と男児選好の役割—」

自由論題 F-2 「歴史」

- 1) 廣嶋清志 (島根大学)「戸籍法第4則の「6か年目に」はなぜ解釈が2分されるのか？」
- 2) 大塚友美 (日本大学)「小日本主義時代の人口政策—全国総合開発計画に関する人口経済学的分析—」
- 3) 伊原一 (一橋大学)「明治初期における領国人口と食糧生産」
- 4) 黒須里美 (麗澤大学)・高橋美由紀 (立正大学)「人口移動とライフコース—近世東北在郷町の移動と死亡の分析—」

自由論題 E-3 「統計 1」

- 1) 菅桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)「世帯動態調査における非標本誤差の動向—50歳未満離家経験者は減少しているのか？」
- 2) 余田翔平 (国立社会保障・人口問題研究所)・斉藤知洋 (国立社会保障・人口問題研究所)「ひとり親世帯の居住形態の趨勢と地域性—『国勢調査』(1980-2020年) 個票データによる分析—」

企画セッション 5 「AI等テクノロジーと無償労働の未来：日英比較」

組織者：永瀬伸子 (お茶の水女子大学)

討論者：二瓶美里 (東京大学)・小沼光代 ((株)FLAP)

- 1) Vili Lehdonvirta (オックスフォード大学)「The future(s) of unpaid work: How susceptible do experts from different backgrounds think the domestic sphere is to automation?」

- 2) 永瀬伸子（お茶の水女子大学）・臼井恵美子（一橋大学）・大森義明（横浜国立大学）・江天瑠（お茶の水女子・院）「家事代替技術に対する日本の消費者の利用意向：Vignette 調査からの知見」
- 3) エカテリナ・ヘルトグ（オックスフォード大学）／リア・ラパナ（メルボルン大学）／ブレンダン・チャーチル（メルボルン大学）「欧州における家事労働テクノロジーの利用意向に関するジェンダー・学歴差の検討：誰がスマートワイフを使うのだろうか？」
- 4) 松倉力也（日本大学）・福田節也（国立社会保障・人口問題研究所）「無償労働からの解放—無償労働の自動化による経済的効果—」

企画セッション2 「長期的視点からみた日本の結婚行動の変化：多相生命表アプローチ」

組織者：津谷典子（慶應義塾大学）

討論者：小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）・菅桂太（国立社会保障・人口問題研究所）

- 1) 石井太（慶應義塾大学）「結婚の多相生命表：基礎的概念と手法」
- 2) 別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）・石井太（慶應義塾大学）・余田翔平（国立社会保障・人口問題研究所）・岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）・堀口侑（慶應義塾大学・院）「多相生命表からみた現代の結婚行動」
- 3) 津谷典子（慶應義塾大学）・黒須里美（麗澤大学）・石井太（慶應義塾大学）「多相生命表からみた近世東北農村の結婚行動」
- 4) 石井太（慶應義塾大学）・別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）・余田翔平（国立社会保障・人口問題研究所）・岩澤美帆（国立社会保障・人口問題研究所）・堀口侑（慶應義塾大学・院）「多相生命表を用いた配偶関係別将来推計人口」

自由論題 G-1 「出生2」

- 1) 靳璇（お茶の水女子大学・院）「中国都市部における有配偶者の出生意欲の関連要因」
- 2) 萩原潤（宮城大学）「家系図データを用いた中長期の人口変動：パプアニューギニアギデラ社会の例」
- 3) 小西祥子（東京大学）・玉置えみ（学習院大学）「不妊治療および性交頻度と出生力」

自由論題 G-2 「出生3」

- 1) 松田茂樹（中京大学）「基礎自治体が実施した少子化対策が出生率に与えた効果」
- 2) 鈴木俊光（中央大学）「新型コロナウイルス感染症影響下における追加出生意欲 ～日・瑞・独・仏を対象とした人口学的・社会経済的要因分析～」
- 3) 増田幹人（駒澤大学）「ポストコロナにおける日本の合計出生率の変化—韓国および欧米先進国との比較—」

自由論題 G-3 「統計2」

- 1) 林玲子（国立社会保障・人口問題研究所）「日本の障害統計整備と障害率の動向」
- 2) 野村侑平（早稲田大学・院）「国勢調査における外国人人口の過少計上に関する地域差とその経年変化」
- 3) 北原昌嗣（総務省統計局）「国勢調査の補定方法に関する一考察」

（岩澤美帆 記）